

地域の伝統行事

「綱による道切り」

情報提供 / 久留里城址資料館

君津市久留里字内山

☎0439-27-3478

道切りとしてしめ縄をかける例は各地に見られ、千葉県内では、綱を蛇の形に作る例や、綱に器物などを吊り下げる例（木更津市金田・鴨川市など）が確認されています。2月13日号で紹介した「金田のつなほり」に続いて、君津市でも同じような伝統行事が伝承されています。

現在、坂田で「しめ張り」が行われ、人見ではこれを個人宅の門に張ります。南東部の香原で行われる「綱より」は、綱に草鞋（わらじ）などを下り、隣接する鴨川市との類似性が見られます。また過去には、貞元でしめ張りが、豊英で綱よりに近いものが行われていたと伝えられています。主要道路に通られた綱は、大型車の通行が盛んになる昭和30・40年代に、その多くが姿を消しました。しかし、地区によっては、道路脇に設置するなどの工夫で、現在も伝承されています。

「しめ張り」坂田

2月上旬に、4つの組（現在は3つの組）の役員が、組ごとに一つずつ作成し、集落の入口に設置します。形は、綱に房（藁製）3個と、弊（しで）紙製）4個を下げるものです。制作後は清めの意味で会食を共にしますが、悪い病気などが入って来ないようにという意味で行われています。



▲旧中野村境
『周西地域誌』周西マップクラブ編より



▲旧畑沢村境
『周西地域誌』周西マップクラブ編より

「綱より」香木原

1月2日に男性が集まり、香木原自治会館で制作して、集落入口の3か所（鴨川境・長狭境・清水境）の道路脇に設置します。制作後は宴会となります。綱には、道具や器物を下げ、悪いものが入って来るのを防ぎます。



▲2014年（平成26年）撮影 上総公民館提供▲



香木原の綱よりに 下げているもの

- ①藁草履★（わらぞうり）
- ②草鞋★（わらじ）
- ③棧俵★（さんだわら）
※半俵とも呼んでいる
- ④苞っこ（つつこ）
- ⑤徳利（とっくり）
- ⑥注連（しめ）



藁草履★

★印の3つは完成させず、綺麗に作ってはいけないと言います。「こんなものを作る村には

ろくな者がいない」とを示し、悪いものが村に入る事を諦めさせると伝えられています。



草鞋★



棧俵★

▼棧俵は、一般的には俵の側面として使われました。または神への供え物をのせる容器としても使われています。香木原の綱よりではこれを完成させず、「俵の部品としては、完全でなく米がこぼれてしまふ」という意味と伝えています。



苞っこ

▼苞っこは、一般的には藁などを束ねて食べ物などを包み、主に持ち歩くためのもので、「土産」を示す意味もあります。香木原の綱よりではネギと炭を入れます。臭いのきついものと食べられないものを入れた、嫌がらせの意味と考えています。



徳利

▼徳利には杉葉を挿します。「酒を供える意味で下げるのだらうが、藁で作るので、酒が漏れてしまふ」「杉はチクチクするので嫌が」と伝えています。



注連

▼注連は3個下げます。※下げる順序は決まっています。

疫病ときみつの信仰
—道切りを中心に—
屋外展示のみ延長展示中!
(2月28日(日)まで)
製作動画をご覧ください!



香木原
「綱より」
製作動画



広岡
(稲滝・鹿ノ畑)
「人形だんご」
製作動画



久留里大和田
「ヒョウヨケ」
製作動画



地域の 魅力再発見

房総ファミリア新聞
ホームページにて
発信中!

